



山梨県景気動向指数(CI)

令和4年12月分

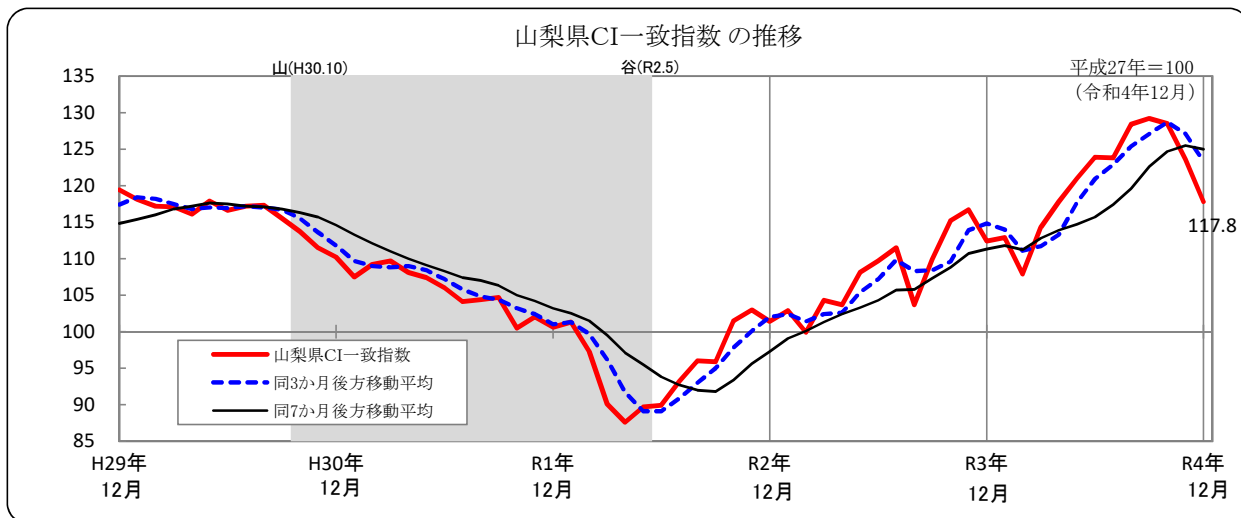
景気の先行きを示す **先行指数**は 127.0 となり、前月と比較して 2.2 ポイント 下降し、4 か月連続の 下降となった。

景気の現状を示す **一致指数**は 117.8 となり、前月と比較して 5.8 ポイント 下降し、3 か月連続の 下降となった。

景気に遅れて動きを示す **遅行指数**は 122.8 となり、前月と比較して 0.4 ポイント 上昇し、3 か月連続の 上昇となった。

<CI一致指数の前月差に対する個別系列の寄与度>

寄与度がプラスの系列	寄与度	寄与度がマイナスの系列	寄与度
百貨店・スーパー販売額[前]	0.20	鉱工業生産指数(鉱工業)	△ 1.78
		所定外労働時間指数(製造業30人以上)	△ 2.52
		有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	△ 0.60
		県立美術館・富士山世界遺産センター(北館)来館者数	△ 1.12



※ グラフ中の山は内閣府発表による全国の景気基準日付です。

山梨県 県民生活部 統計調査課

<問い合わせ先> 分析担当
電話 :055-223-1344 / FAX :055-223-1347
E-Mail : toukei@pref.yamanashi.lg.jp
HP : https://www.pref.yamanashi.jp/toukei_2/

目 次

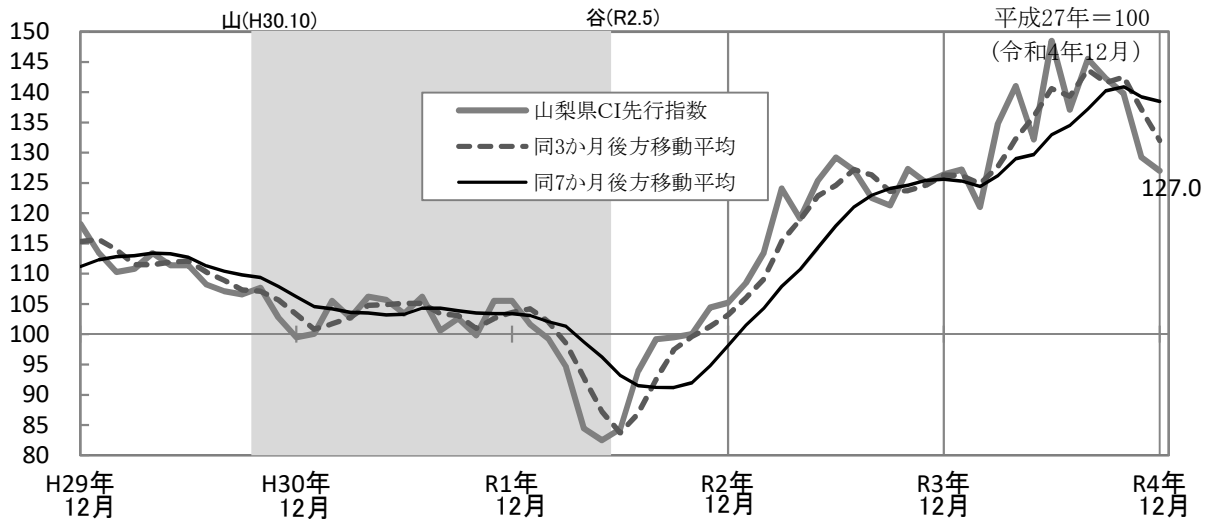
1	山梨県CI先行指数の動向	1
	(1) 山梨県CI先行指数の動き	
	(2) 山梨県CI先行指数の推移	
	(3) 山梨県CI先行指数 採用系列の寄与度	
2	山梨県CI一致指数の動向	2
	(1) 山梨県CI一致指数の動き	
	(2) 山梨県CI一致指数の推移	
	(3) 山梨県CI一致指数 採用系列の寄与度	
3	山梨県CI遅行指数の動向	3
	(1) 山梨県CI遅行指数の動き	
	(2) 山梨県CI遅行指数の推移	
	(3) 山梨県CI遅行指数 採用系列の寄与度	
4	CI時系列グラフ	4
5	山梨県CI時系列表	5
6	(参考)山梨県DIの動向	6
7	(参考)山梨県DI変化方向表	7
8	(参考)山梨県DI時系列グラフ	8
9	(参考)山梨県DI時系列表	9
10	(参考)DI累積一致指数時系列グラフ	10
11	山梨県景気動向指数個別系列の概要	11

1 山梨県CI先行指数の動向

(1) 山梨県CI先行指数の動き

12月の山梨県CI先行指数(H27=100)は127.0となり、前月と比較して2.2ポイント下降し、4か月連続の下降となりました。3か月後方移動平均は5.10ポイント下降し、2か月連続の下降、7か月後方移動平均は0.74ポイント下降し、2か月連続の下降となりました。

(2) 山梨県CI先行指数の推移



※ グラフ中の山は内閣府発表による全国の景気基準日付です。

(3) 山梨県CI先行指数 採用系列の寄与度 ^{注1}

		令和4年					
		7月	8月	9月	10月	11月	12月
山梨県CI先行指数		137.1	145.5	142.3	139.8	129.2	127.0
	前月差(ポイント)	△ 11.4	8.4	△ 3.2	△ 2.5	△ 10.6	△ 2.2
1 鉱工業在庫率指数(逆) ^{注2}	前月比伸び率(%)	21.6	△ 8.9	5.6	3.0	14.5	△ 7.2
	寄与度	△ 4.71	2.44	△ 1.22	△ 0.55	△ 2.91	1.91
2 鉱工業生産指数(生産財)	前月比伸び率(%)	△ 9.7	1.4	1.2	△ 2.9	△ 10.5	△ 0.9
	寄与度	△ 4.26	0.65	0.55	△ 1.12	△ 4.24	△ 0.14
3 新規求人数 (新規学卒を除く全数)	前月比伸び率(%)	△ 5.4	△ 0.8	12.0	△ 13.7	△ 4.1	15.6
	寄与度	△ 1.43	△ 0.21	2.86	△ 3.70	△ 0.97	3.30
4 新設住宅着工戸数[前]	前月差	△ 47.5	38.9	△ 27.8	28.8	30.7	△ 53.9
	寄与度	△ 2.38	1.89	△ 1.41	1.40	1.41	△ 2.38
5 東証業種別株価指数 (電気機器)[前]	前月差	5.7	△ 2.3	△ 14.4	6.5	3.6	△ 12.5
	寄与度	1.06	△ 0.27	△ 2.22	1.21	0.69	△ 1.70
6 法人企業景気予測調査・貴社の 景況判断BSI(中小企業 全産業 翌期)	前月差	6.2	6.2	6.2	△ 11.8	△ 11.8	△ 11.8
	寄与度	1.65	1.62	1.63	△ 3.14	△ 2.95	△ 2.78
7 新車登録・届出台数 (乗用車・貨物車)	前月比伸び率(%)	△ 0.3	7.9	△ 9.6	11.7	△ 8.2	1.1
	寄与度	△ 0.16	1.92	△ 2.80	2.80	△ 2.23	0.17
8 日経商品指数(42種総合)	前月比伸び率(%)	△ 1.0	0.3	△ 0.7	0.6	0.8	△ 0.3
	寄与度	△ 1.59	△ 0.28	△ 1.26	0.06	0.19	△ 0.76
3か月後方移動平均	前月差(ポイント)	139.3	143.7	141.6	142.5	137.1	132.0
	前月差(ポイント)	△ 1.30	4.43	△ 2.07	0.90	△ 5.43	△ 5.10
7か月後方移動平均	前月差(ポイント)	134.5	137.2	140.2	140.9	139.2	138.5
	前月差(ポイント)	1.53	2.62	3.04	0.71	△ 1.68	△ 0.74

注1: 山梨県CIの前月からの変化(前月差)が、各採用系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

注2: (逆)とは逆サイクルのことを示し、採用系列が景気の動きに対し反対の方向に動くことをいう。

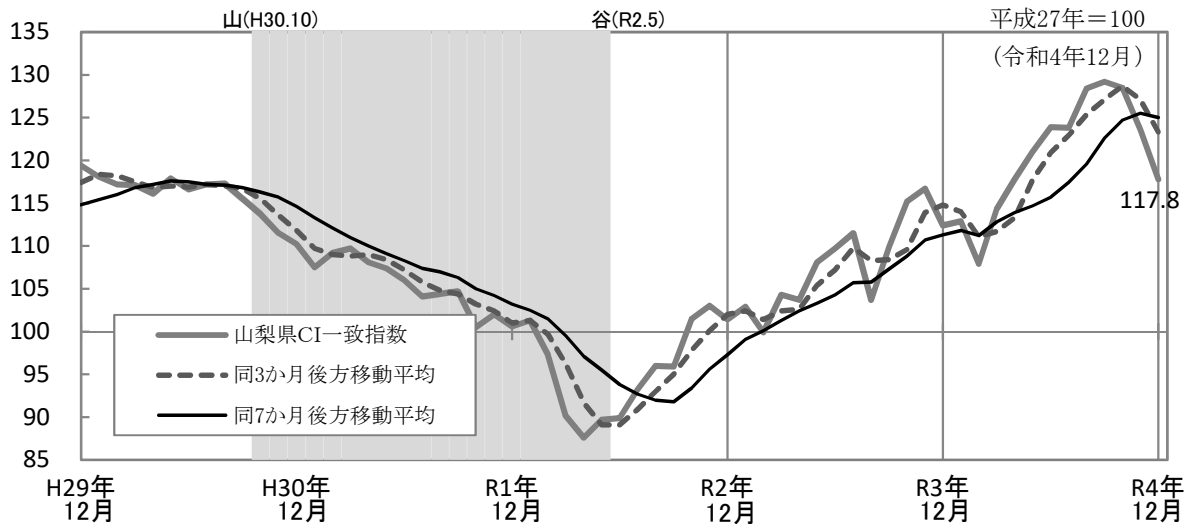
指数の前月差がプラスになれば、CI先行指数に対する寄与度のマイナス要因となり、マイナスになればプラス要因になる。

2 山梨県CI一致指数の動向

(1) 山梨県CI一致指数の動き

12月の山梨県CI一致指数(H27=100)は117.8となり、前月と比較して5.8ポイント下降し、3か月連続の下降となりました。3か月後方移動平均は3.80ポイント下降し、2か月連続の下降、7か月後方移動平均は0.46ポイント下降し、10か月ぶりの下降となりました。

(2) 山梨県CI一致指数の推移



※ グラフ中の山は内閣府発表による全国の景気基準日付です。

(3) 山梨県CI一致指数 採用系列の寄与度 ^{注1}

		令和4年					
		7月	8月	9月	10月	11月	12月
山梨県CI一致指数		123.8	128.4	129.2	128.5	123.6	117.8
	前月差(ポイント)	△ 0.1	4.6	0.8	△ 0.7	△ 4.9	△ 5.8
1 鉱工業生産指数(鉱工業)	前月比伸び率(%)	△ 0.4	0.5	△ 0.4	△ 2.1	△ 6.7	△ 5.8
	寄与度	△ 0.13	0.15	△ 0.13	△ 0.68	△ 2.16	△ 1.78
2 百貨店・スーパー販売額[前]	前月差	△ 0.2	△ 0.3	2.8	1.7	△ 1.0	0.7
	寄与度	△ 0.05	△ 0.08	0.86	0.52	△ 0.30	0.20
3 所定外労働時間指数 (製造業30人以上)	前月比伸び率(%)	△ 1.8	5.0	△ 4.4	0.0	△ 5.5	△ 9.2
	寄与度	△ 0.48	1.33	△ 1.27	0.00	△ 1.56	△ 2.52
4 有効求人倍率 (新規学卒を除く全数)	前月差	△ 0.01	0.01	0.06	△ 0.05	△ 0.02	△ 0.02
	寄与度	△ 0.36	0.26	1.83	△ 1.64	△ 0.65	△ 0.60
5 県立美術館・富士山世界遺産 センター(北館)来館者数	前月比伸び率(%)	7.0	28.5	△ 6.7	8.3	△ 4.9	△ 12.2
	寄与度	0.93	2.91	△ 0.44	1.13	△ 0.27	△ 1.12
3か月後方移動平均		122.9	125.4	127.1	128.7	127.1	123.3
	前月差(ポイント)	2.00	2.47	1.76	1.57	△ 1.60	△ 3.80
7か月後方移動平均		117.4	119.6	122.6	124.7	125.5	125.0
	前月差(ポイント)	1.63	2.22	3.04	2.03	0.83	△ 0.46

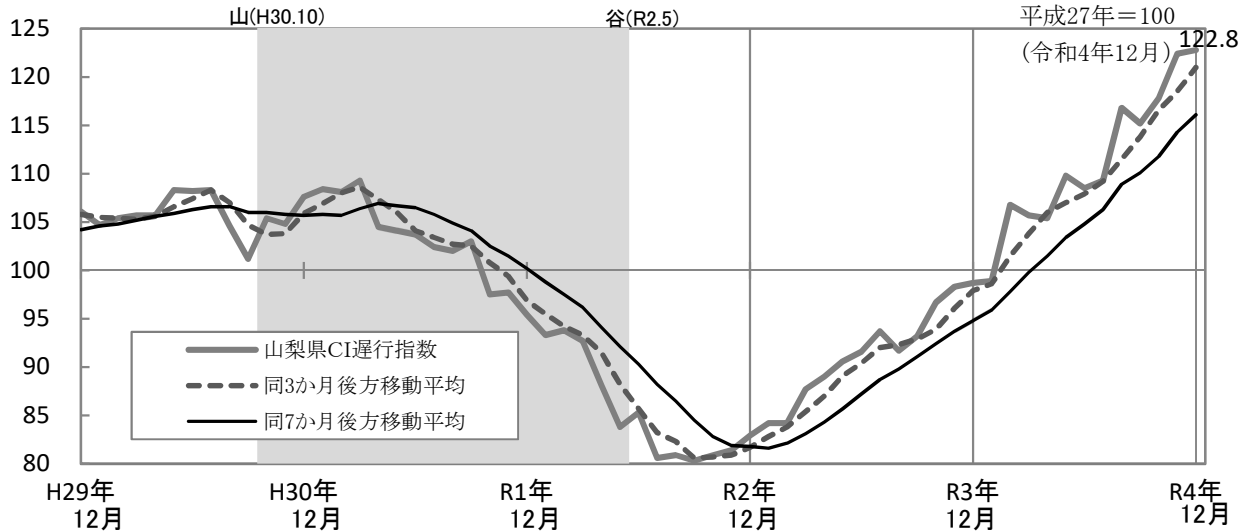
注1: 山梨県CIの前月からの変化(前月差)が、各採用系列からどの程度もたらされたのかを示した数値

3 山梨県CI運行指数の動向

(1) 山梨県CI運行指数の動き

12月の山梨県CI運行指数(H27=100)は122.8となり、前月と比較して0.4ポイント上昇し、3か月連続の上昇となりました。3か月後方移動平均は2.53ポイント上昇し、27か月連続の上昇、7か月後方移動平均は1.85ポイント上昇し、23か月連続の上昇となりました。

(2) 山梨県CI運行指数の推移



(3) 山梨県CI運行指数 採用系列の寄与度 ^{注1}

		令和4年					
		7月	8月	9月	10月	11月	12月
山梨県CI運行指数	前月差(ポイント)	109.3	116.8	115.2	117.8	122.4	122.8
	寄与度	0.8	7.5	△ 1.6	2.6	4.6	0.4
1 実質法人企業設備投資(製造業)	前月比伸び率(%)	△ 0.7	△ 0.7	△ 0.7			
	寄与度	△ 0.39	△ 0.39	△ 0.39			
2 第3次産業活動指数 (対事業所サービス)	前月比伸び率(%)	△ 2.9	1.0	0.0	0.0	△ 0.1	0.9
	寄与度	△ 2.24	0.83	△ 0.02	△ 0.03	△ 0.12	0.96
3 家計消費支出(二人以上の世帯)	前月比伸び率(%)	3.5	4.8	△ 7.7	25.0	0.1	△ 9.9
	寄与度	0.32	0.45	△ 0.77	2.62	0.01	△ 1.31
4 常用雇用指数 (製造業30人以上)[前]	前月差	0.0	12.5	△ 10.8	△ 0.6	8.7	0.1
	寄与度	△ 0.02	2.61	△ 2.31	△ 1.36	2.89	0.14
5 有効求職者数(逆) ^{注2}	前月比伸び率(%)	△ 0.8	△ 0.4	△ 0.9	△ 1.3	△ 1.3	△ 0.5
	寄与度	0.56	0.29	0.58	1.10	1.07	0.46
6 法人事業税(調定額)	前月比伸び率(%)	44.7	69.8	15.0	△ 0.7	5.9	0.3
	寄与度	2.22	3.15	0.82	△ 0.12	0.35	△ 0.07
3か月後方移動平均		109.2	111.5	113.8	116.6	118.5	121.0
前月差(ポイント)		1.30	2.33	2.24	2.83	1.87	2.53
7か月後方移動平均		106.3	108.9	110.1	111.8	114.3	116.1
前月差(ポイント)		1.51	2.56	1.20	1.73	2.43	1.85

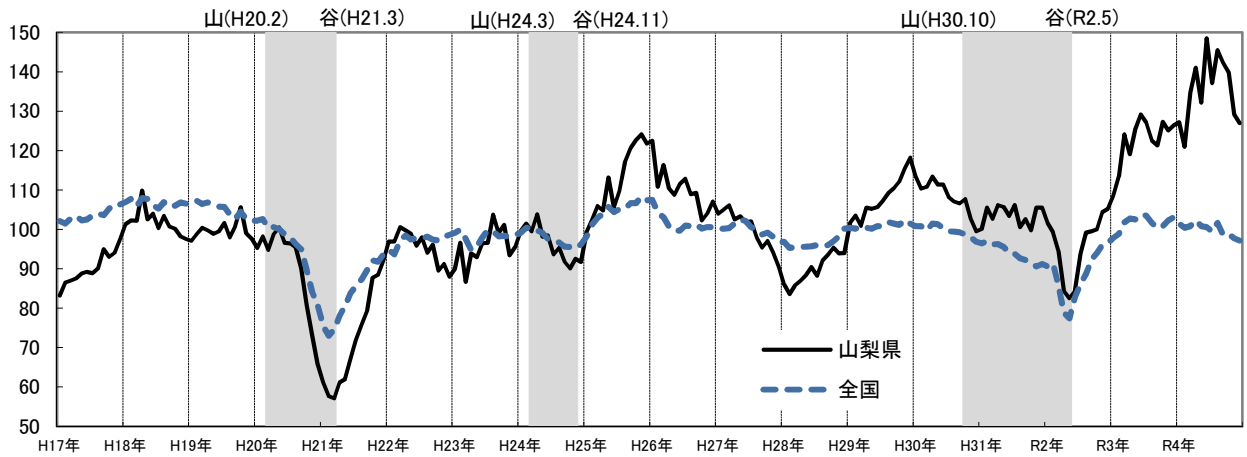
注1: 山梨県CIの前月からの変化(前月差)が、各採用系列からどの程度もたらされたのかを示した数値。

注2: (逆)とは逆サイクルのことを示し、採用系列が景気の動きに対し反対の方向に動くことをいう。

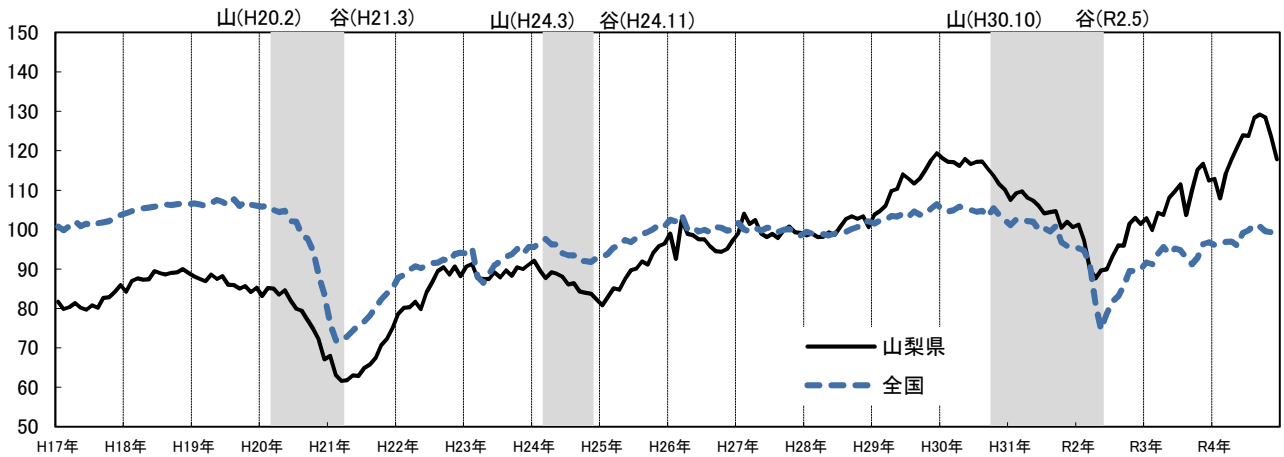
指数の前月差がプラスになれば、CI運行指数に対する寄与度のマイナス要因となり、マイナスになればプラス要因になる。

4 CI時系列グラフ

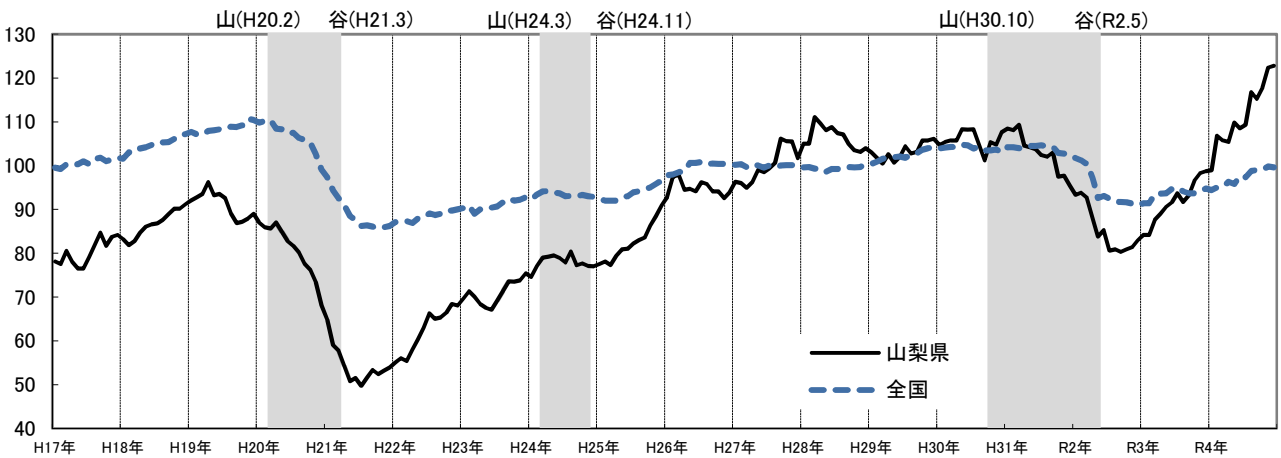
(先行指数)



(一致指数)



(遅行指数)



※ グラフ中の山・谷は内閣府発表による全国の景気基準日付です。

5 山梨県CI時系列表

(先行指数)

H27=100

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2012	H24	99.6	101.5	99.5	103.8	98.1	98.5	93.7	95.4	91.8	90.1	92.5	91.7
2013	H25	99.4	102.5	105.9	104.8	113.2	105.5	109.7	117.2	120.6	122.7	124.1	121.8
2014	H26	122.5	110.8	116.3	110.4	108.8	111.5	112.8	108.9	109.3	102.3	104.1	107.1
2015	H27	104.0	105.0	106.1	102.5	103.3	101.8	102.0	98.0	95.4	97.1	94.2	90.5
2016	H28	86.0	83.6	85.8	86.9	88.4	90.4	88.2	92.1	93.6	95.4	93.9	94.0
2017	H29	101.6	103.5	100.9	105.5	105.2	105.6	107.2	109.3	110.5	112.2	115.5	118.2
2018	H30	113.5	110.3	110.8	113.4	111.4	111.4	108.2	107.1	106.6	107.7	102.8	99.5
2019	H31/R1	100.1	105.5	102.7	106.2	105.7	103.4	106.2	100.6	102.6	99.8	105.5	105.5
2020	R2	101.6	99.3	94.6	84.4	82.5	84.3	93.9	99.2	99.5	100.0	104.4	105.2
2021	R3	108.5	113.5	124.1	119.1	125.4	129.2	127.1	122.5	121.3	127.3	125.1	126.4
2022	R4	127.2	121.0	134.8	141.0	132.2	148.5	137.1	145.5	142.3	139.8	129.2	127.0

(一致指数)

H27=100

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2012	H24	92.1	89.7	87.7	89.2	88.8	88.0	86.1	86.4	84.3	84.0	83.7	82.3
2013	H25	80.8	83.0	85.1	84.7	87.5	89.7	90.1	91.9	91.1	94.1	95.8	96.5
2014	H26	99.0	92.6	102.6	98.9	98.6	97.5	97.5	95.8	94.5	94.4	95.1	97.2
2015	H27	99.1	104.0	101.4	102.4	99.0	98.1	98.9	97.9	99.8	100.8	99.3	99.2
2016	H28	98.5	99.0	98.1	98.2	99.3	98.7	100.8	102.7	103.4	102.7	103.4	100.6
2017	H29	103.8	104.8	106.1	109.8	110.3	114.0	113.0	111.7	113.0	115.1	117.6	119.4
2018	H30	118.1	117.2	117.1	116.1	117.9	116.6	117.2	117.3	115.5	113.7	111.5	110.2
2019	H31/R1	107.5	109.2	109.7	108.1	107.4	106.0	104.1	104.4	104.7	100.5	102.0	100.6
2020	R2	101.3	97.3	90.1	87.6	89.7	89.9	93.2	96.0	95.9	101.5	103.0	101.4
2021	R3	102.9	99.9	104.3	103.7	108.1	109.7	111.5	103.7	109.9	115.2	116.7	112.4
2022	R4	112.9	107.9	114.3	117.8	121.0	123.9	123.8	128.4	129.2	128.5	123.6	117.8

(遅行指数)

H27=100

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2012	H24	74.6	77.1	79.0	79.2	79.5	78.9	77.9	80.4	77.2	77.7	77.1	77.0
2013	H25	77.5	78.1	77.3	79.4	80.9	81.0	82.2	83.0	83.6	86.3	88.5	91.0
2014	H26	92.8	97.4	97.9	94.5	94.7	94.1	96.2	95.8	94.1	94.1	92.6	93.9
2015	H27	96.3	96.0	94.9	96.2	99.0	98.5	99.4	100.6	106.2	105.6	105.5	101.7
2016	H28	105.0	105.0	111.1	109.6	108.1	108.8	107.4	107.1	104.9	103.5	103.1	104.0
2017	H29	103.0	101.7	100.5	102.6	100.7	102.0	104.4	102.7	103.1	105.7	105.7	106.1
2018	H30	104.7	105.4	105.7	105.7	108.3	108.2	108.3	104.6	101.2	105.4	104.8	107.6
2019	H31/R1	108.4	108.1	109.3	104.5	104.1	103.7	102.4	102.0	103.0	97.5	97.7	95.4
2020	R2	93.3	93.8	92.7	88.1	83.8	85.3	80.6	80.9	80.3	80.9	81.4	82.9
2021	R3	84.2	84.2	87.7	89.0	90.6	91.6	93.7	91.7	93.2	96.7	98.3	98.7
2022	R4	98.9	106.8	105.7	105.4	109.8	108.5	109.3	116.8	115.2	117.8	122.4	122.8

6 (参考)山梨県DIの動向

先行指数 37.5% … 2か月連続で50%を下回った。
 一致指数 20.0% … 2か月連続で50%を下回った。
 遅行指数 100.0% … 3か月連続で50%を上回った。

個別系列の動向

	プラスの系列	連続月数	マイナスの系列	連続月数
先行系列	新設住宅着工戸数[前]	3	鉱工業在庫率指数(逆)	2
	新車登録・届出台数(乗用車・貨物車)	1	鉱工業生産指数(生産財)	4
	日経商品指数(42種)	3	新規求人数(新規学卒を除く全数)	3
			東証業種別株価指数(電気機器)[前]	20
			法人企業景気予測調査・貴社の景況判断 BSI	2
一致系列	百貨店・スーパー販売額[前]	4	鉱工業生産指数(鉱工業)	4
			所定外労働時間指数(製造業30人以上)	2
			有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	2
			県立美術館・富士山世界遺産センター(北館)来館者数	2
遅行系列	第3次産業活動指数(対事業所サービス業)	1		
	家計消費支出(二人以上の世帯)	3		
	常用雇用指数(製造業30人以上)[前]	1		
	有効求職者数(逆)	5		
	法人事業税(調定額)	4		

景気動向指数(DI)とは

・ 景気動向指数は、鉱工業生産指数や有効求人倍率など景気の動きに敏感な各経済部門から選ばれた系列の動きを統合して、単一の系列によって景気の動向を捉えようとしたもので、先行、一致、遅行の各系列の採用系列の変化を3か月前と比較し、改善した系列の割合で、景気の改善、悪化等その局面の方向性を示すものです。

※ 採用している基礎統計が確報値を公表するなどした場合、過去に遡って改訂します。

7 (参考)山梨県DI変化方向表

系列名		令和3年	令和4年											
		12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
先行系列	1 鉱工業在庫率指数(逆)	-	-	-	-	-	+	+	+	+	-	+	-	-
	2 鉱工業生産指数(生産財)	-	+	-	+	+	-	+	-	+	-	-	-	-
	3 新規求人数(新規学卒を除く全数)	+	+	-	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-
	4 新設住宅着工戸数[前]	-	-	+	-	+	-	+	-	+	-	+	+	+
	5 東証業種別株価指数(電気機器)[前]	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	6 法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI(中小企業 全産業 翌期)注1	-	+	+	+	+	+	-	+	+	+	+	-	-
	7 新車登録・届出台数(乗用車・貨物車)	+	+	-	-	-	-	+	+	+	-	+	-	+
	8 日経商品指数(42種)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+	+	+
拡張系列		3	5	3	4	5	4	6	5	7	2	5	2	3
採用系列		8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
先行指数(D.I.) (%)		37.5	62.5	37.5	50.0	62.5	50.0	75.0	62.5	87.5	25.0	62.5	25.0	37.5
一致系列	1 鉱工業生産指数(鉱工業)	+	+	-	+	+	-	+	-	+	-	-	-	-
	2 百貨店・スーパー販売額[前]	-	-	+	+	+	+	-	-	-	+	+	+	+
	3 所定外労働時間指数(製造業30人以上)	-	-	+	+	+	+	+	+	+	-	+	-	-
	4 有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-
	5 県立美術館・富士山世界遺産センター(北館)来館者数	+	-	-	-	+	+	+	+	+	+	+	-	-
拡張系列		3	2	3	4	5	4	4	3	4	3	4	1	1
採用系列		5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
一致指数(D.I.) (%)		60.0	40.0	60.0	80.0	100.0	80.0	80.0	60.0	80.0	60.0	80.0	20.0	20.0
遅行系列	1 実質法人企業設備投資(製造業)注1	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	-
	2 第3次産業活動指数(対事業所サービス業)	+	+	+	+	+	+	+	-	-	-	+	-	+
	3 家計消費支出(二人以上の世帯)	+	+	-	+	+	-	-	-	+	-	+	+	+
	4 常用雇用指数(製造業30人以上)[前]	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	-	+
	5 有効求職者数(逆)	+	-	+	-	+	-	-	-	+	+	+	+	+
	6 法人事業税(調定額)	+	-	+	-	+	-	-	-	-	+	+	+	+
拡張系列		6	4	5	4	6	3	3	2	4	3	5	3	5
採用系列		6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	5	5	5
遅行指数(D.I.) (%)		100.0	66.7	83.3	66.7	100.0	50.0	50.0	33.3	66.7	50.0	100.0	60.0	100.0

注1 「L6 法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI(中小企業 全産業 翌期)」及び「LG1実質法人企業設備投資(製造業)」は四半期データであるため、四半期に該当する3か月のそれぞれの変化量を等しいとして線形補間しています。(4-6月期であれば6月に四半期値を代入)

注2 今回修正した指数は斜体文字で表しています。

(参考：経済関係レポート等抜粋)

月例経済報告 (令和5年2月・内閣府・2月21日公表)

景気は、このところ一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。

先行きについては、ウィズコロナの下で、各種政策の効果もあって、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、世界的な金融引締め等が続く中、海外景気の下振れが我が国の景気を下押しするリスクとなっている。また、物価上昇、供給面での制約、金融資本市場の変動等の影響や中国における感染拡大の影響に十分注意する必要がある。

景気動向指数 (令和4年12月分・内閣府経済社会総合研究所・2月27日公表)

景気動向指数 (C I 一致指数) は、足踏みを示している。

C I 先行指数 97.7 → 97.2

C I 一致指数 99.3 → 99.1

C I 遅行指数 99.8 → 99.6

山梨県金融経済概観 (2023年2月・日本銀行甲府支店・2月15日公表)

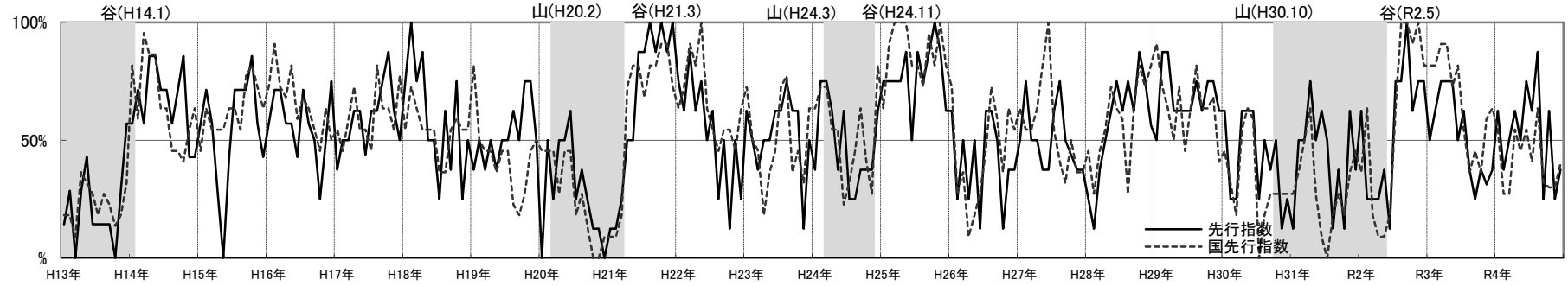
県内景気は、感染症抑制と経済活動の両立が進むも、資源高の影響などを受けつつも、基調としては持ち直している。

個人消費は、資源高などによる下押し圧力を受けつつも、持ち直している。

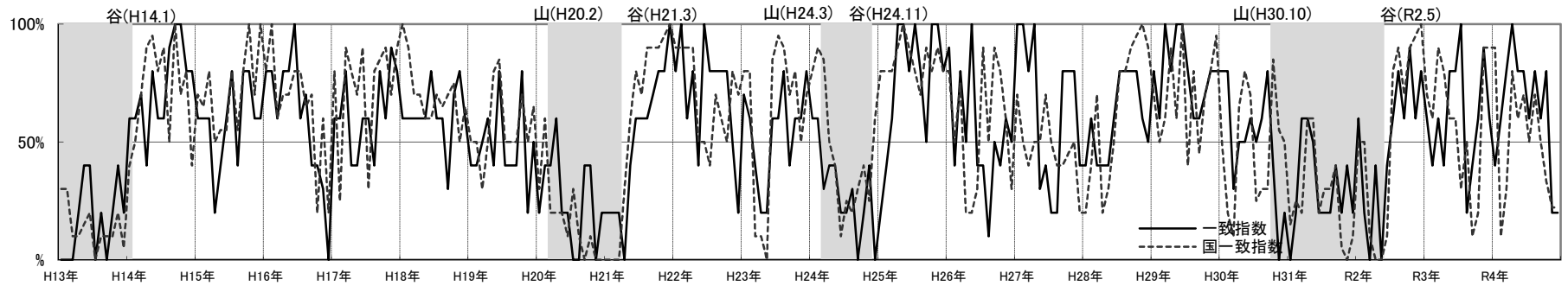
生産は、高水準ながらも、一部に弱めの動きがみられている。

8 (参考)山梨県DI時系列グラフ

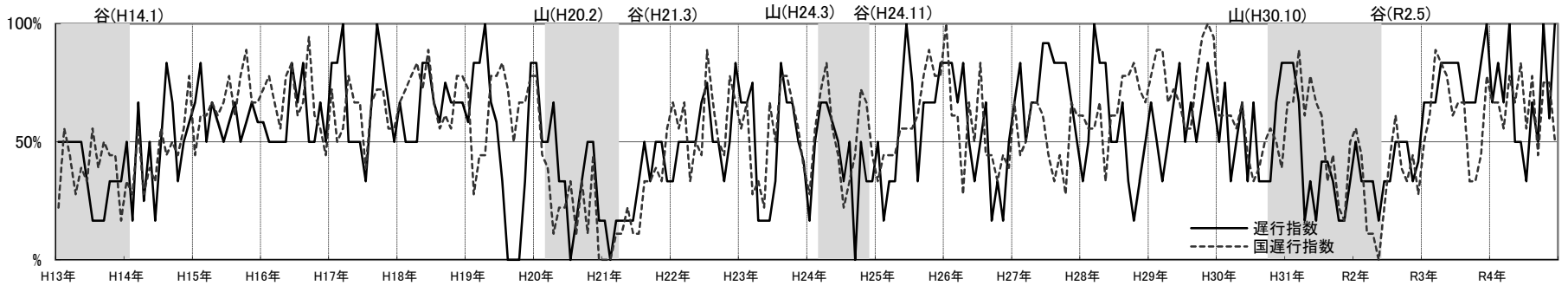
(先行指数)



(一致指数)



(遅行指数)



※ グラフ中の山・谷は内閣府発表による全国の景気基準日付です。

9 (参考)山梨県DI時系列表

(先行指数)

単位(%)

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2012	H24	37.5	75.0	75.0	62.5	37.5	62.5	25.0	25.0	37.5	37.5	37.5	62.5
2013	H25	75.0	75.0	75.0	75.0	87.5	50.0	87.5	75.0	87.5	100.0	87.5	62.5
2014	H26	62.5	25.0	50.0	25.0	50.0	12.5	62.5	62.5	50.0	12.5	37.5	37.5
2015	H27	50.0	75.0	50.0	50.0	37.5	37.5	62.5	75.0	50.0	43.8	37.5	37.5
2016	H28	25.0	12.5	37.5	50.0	62.5	75.0	62.5	75.0	62.5	87.5	75.0	56.3
2017	H29	50.0	87.5	87.5	62.5	62.5	62.5	62.5	75.0	62.5	75.0	75.0	62.5
2018	H30	62.5	25.0	25.0	62.5	62.5	62.5	25.0	50.0	37.5	50.0	12.5	25.0
2019	H31/R1	12.5	50.0	50.0	75.0	50.0	62.5	50.0	12.5	37.5	12.5	62.5	37.5
2020	R2	62.5	25.0	25.0	25.0	37.5	12.5	75.0	75.0	100.0	62.5	75.0	75.0
2021	R3	50.0	62.5	75.0	75.0	75.0	50.0	62.5	37.5	25.0	37.5	31.3	37.5
2022	R4	62.5	37.5	50.0	62.5	50.0	75.0	62.5	87.5	25.0	62.5	25.0	37.5

(一致指数)

単位(%)

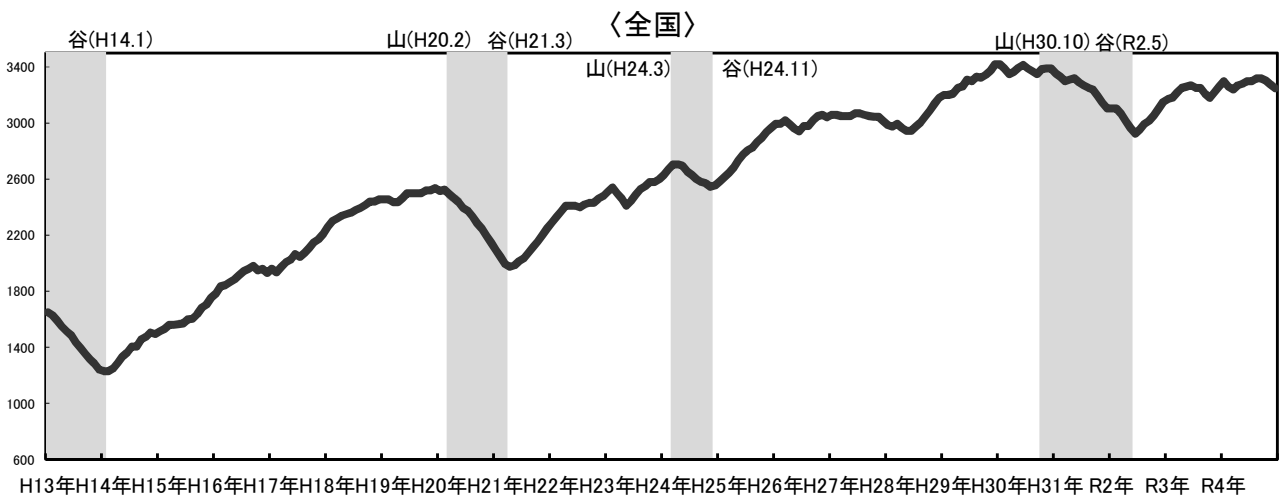
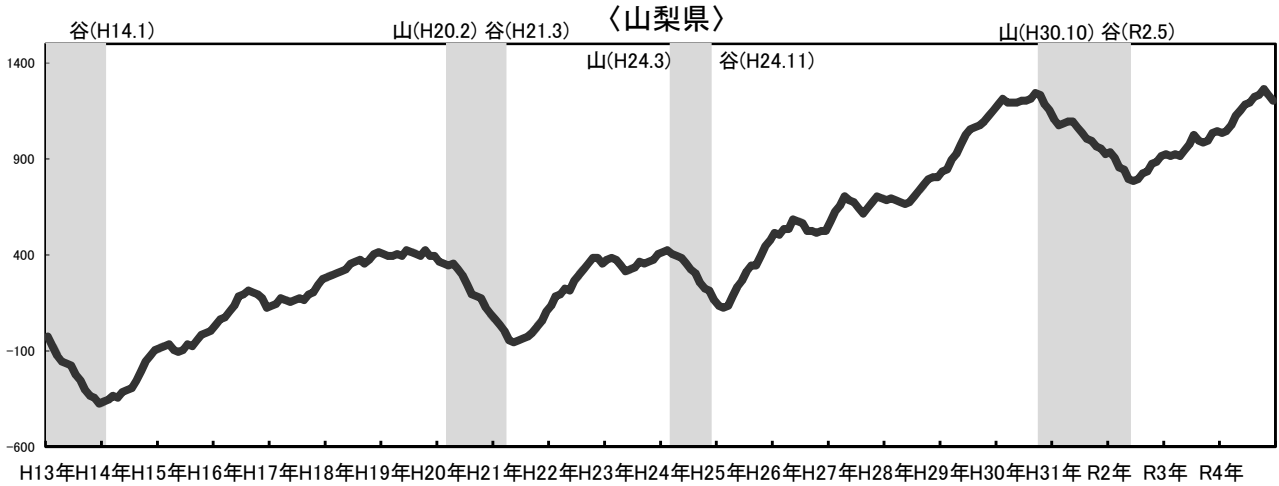
西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2012	H24	60.0	60.0	30.0	40.0	40.0	20.0	20.0	30.0	0.0	20.0	40.0	0.0
2013	H25	20.0	40.0	60.0	100.0	100.0	80.0	100.0	80.0	50.0	100.0	100.0	80.0
2014	H26	90.0	40.0	80.0	50.0	100.0	40.0	40.0	10.0	50.0	40.0	60.0	50.0
2015	H27	100.0	100.0	80.0	100.0	30.0	40.0	20.0	20.0	80.0	80.0	80.0	40.0
2016	H28	40.0	60.0	40.0	40.0	40.0	60.0	80.0	80.0	80.0	80.0	60.0	50.0
2017	H29	80.0	60.0	100.0	80.0	100.0	100.0	80.0	60.0	60.0	70.0	80.0	80.0
2018	H30	80.0	80.0	30.0	50.0	50.0	60.0	50.0	60.0	80.0	40.0	0.0	20.0
2019	H31/R1	0.0	20.0	60.0	60.0	50.0	20.0	20.0	20.0	40.0	20.0	40.0	20.0
2020	R2	60.0	20.0	0.0	40.0	0.0	40.0	60.0	80.0	60.0	90.0	60.0	80.0
2021	R3	60.0	40.0	60.0	40.0	80.0	80.0	100.0	20.0	40.0	60.0	90.0	60.0
2022	R4	40.0	60.0	80.0	100.0	80.0	80.0	60.0	80.0	60.0	80.0	20.0	20.0

(遅行指数)

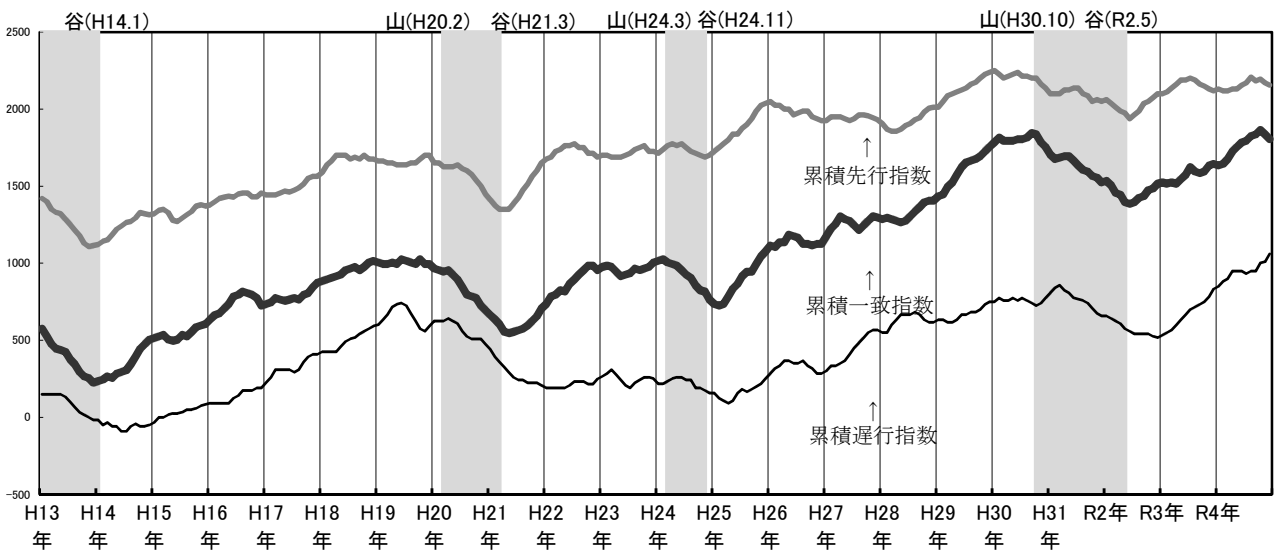
単位(%)

西暦	和暦	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2012	H24	16.7	50.0	66.7	66.7	58.3	50.0	33.3	50.0	0.0	50.0	33.3	33.3
2013	H25	50.0	16.7	33.3	33.3	66.7	100.0	75.0	33.3	66.7	66.7	66.7	83.3
2014	H26	83.3	83.3	66.7	83.3	50.0	33.3	50.0	66.7	16.7	33.3	16.7	50.0
2015	H27	66.7	83.3	50.0	66.7	66.7	91.7	91.7	83.3	83.3	83.3	66.7	50.0
2016	H28	33.3	50.0	100.0	83.3	83.3	50.0	50.0	66.7	33.3	16.7	33.3	50.0
2017	H29	66.7	50.0	33.3	50.0	66.7	83.3	50.0	66.7	50.0	66.7	83.3	66.7
2018	H30	50.0	75.0	33.3	50.0	66.7	33.3	66.7	33.3	33.3	33.3	66.7	83.3
2019	H31/R1	83.3	83.3	66.7	16.7	33.3	16.7	41.7	41.7	33.3	16.7	16.7	33.3
2020	R2	50.0	33.3	33.3	33.3	16.7	33.3	33.3	50.0	50.0	50.0	33.3	41.7
2021	R3	66.7	66.7	66.7	83.3	83.3	83.3	83.3	66.7	66.7	66.7	83.3	100.0
2022	R4	66.7	83.3	66.7	100.0	50.0	50.0	33.3	66.7	50.0	100.0	60.0	100.0

10 DI累積一致指数時系列グラフ



山梨県DI累積指数グラフ(先行・一致・遅行)



(注1) 累積指数グラフは、景気の局面や山・谷を視覚的に捉えることができます。ただし、グラフ上の山の大きさや高さは景気の強弱や水準とは無関係です。なお、累積指数は各月のDI指数を次式により累積したものです。

$$\text{累積DI} = \text{前月までの累積DI} + (\text{当月のDI} - 50)$$

(注2) グラフを見やすくするため、先行指数は1500、一致指数は600を加算しています。

(注3) グラフ中の山・谷は内閣府発表による全国の景気基準日付です。

11 山梨県景気動向指数個別系列の概要

	系列名	季節調整方法等	作成機関	資料出所
先行系列	鉱工業在庫率指数(逆)	X-12-ARIMA	山梨県県民生活部統計調査課調査第二担当	鉱工業指数
	鉱工業生産指数(生産財)	X-12-ARIMA	山梨県県民生活部統計調査課調査第二担当	鉱工業指数
	新規求人数(新規学卒を除く全数)	X-12-ARIMA	山梨労働局職業安定部	時系列職業紹介統計表
	新設住宅着工戸数[前]	前年同月比	国土交通省	建築着工統計調査
	東証業種別株価指数(電気機器)[前]	前年同月比	(株)東京証券取引所	株価指数・株価平均
	法人企業景気予測調査・貴社の景況判断BSI(中小企業 全産業 翌期)◆ ^{注1}	実数	甲府財務事務所	法人企業景気予測調査結果(山梨県分)
	新車登録・届出台数(乗用車・貨物車)	X-12-ARIMA※	山梨県自動車販売店協会 山梨県軽自動車協会	新車登録・届出状況
	日経商品指数(42種総合)	原数値	(株)日本経済新聞社	日本経済新聞
一致系列	鉱工業生産指数(鉱工業)	X-12-ARIMA	山梨県県民生活部統計調査課調査第二担当	鉱工業指数
	百貨店・スーパー販売額[前]	前年同月比	経済産業省	商業動態統計調査
	所定外労働時間指数(製造業30人以上)	X-12-ARIMA※	山梨県県民生活部統計調査課調査第一担当	県毎月勤労統計調査
	有効求人倍率(新規学卒を除く全数)	X-12-ARIMA	山梨労働局職業安定部	時系列職業紹介統計表
	県立美術館・富士山世界遺産センター(北館)来館者数 ^{注2}	X-12-ARIMA※	山梨県観光文化部文化振興・文化財課 山梨県観光文化部世界遺産富士山課	作成機関資料
遅行系列	実質法人企業設備投資(製造業)◇ ^{注1}	X-12-ARIMA	財務省	法人企業統計季報
	第3次産業活動指数(対事業所サービス業)	X-12-ARIMA	経済産業省	第3次産業活動指数
	家計消費支出(二人以上の世帯)	X-12-ARIMA※	総務省	家計調査報告
	常用雇用指数(製造業30人以上)[前]	前年同月比 X-12-ARIMA※	山梨県県民生活部統計調査課調査第一担当	県毎月勤労統計調査
	有効求職者数(逆)	X-12-ARIMA	山梨労働局職業安定部	労働市場の動き
	法人事業税(調定額)	X-12-ARIMA※	山梨県総務部税務課	県税徴収状況(作成機関資料)

※山梨県景気動向指数を作成する際に、独自に季節調整を行っています。

注1) ◆及び◇は、四半期データであるため、月次のDIを計算するため四半期に該当する3か月のそれぞれの変化量を等しいと仮定して線形補間しています(4-6月期であれば6月に四半期値を代入)。

注2) 平成28年5月まで富士ビジターセンター来館者数を使用し、平成28年6月から富士山世界遺産センター(北館)来館者数を使用しています。

12 山梨県景気動向指数個別系列の数値

(先行系列)

系列 年月	鉱工業在庫率 指数(逆)	鉱工業生産指数 (生産財)	新規求人数 (新規学卒を除く 全数)	新設住宅 着工戸数[前]	東証業種別株価 指数(電気機器 [前])	法人企業景気予測 調査・貴社の景況 判断BSI(中小企業 全産業 翌期)	新車登録・ 届出台数 (乗用車・貨物 車)	日経商品指数 (42種)
	季節調整値 %	季節調整値 H27=100	季節調整値 人	前年同月比 %	前年同月比 %	実数 %ポイント	季節調整値※ 台	原指数 1970年=100
R3. 12	111.1	98.8	6,235	116.6	125.0	△ 23.8	2,700	222.076
R4. 1	133.2	108.9	6,192	106.9	103.9	△ 15.1	2,785	226.399
2	135.8	99.1	5,406	109.1	100.2	△ 6.3	2,380	233.511
3	156.6	108.3	6,579	112.6	102.2	2.4	2,608	241.598
4	136.3	110.0	6,363	171.7	95.9	1.6	2,529	247.534
5	133.2	98.7	6,258	89.5	99.9	0.8	2,353	247.872
6	111.5	113.4	6,943	117.0	88.8	0.0	2,701	250.630
7	135.6	102.4	6,565	69.5	94.5	6.2	2,692	248.184
8	123.5	103.8	6,513	108.4	92.2	12.4	2,905	248.932
9	130.4	105.0	7,295	80.6	77.8	18.6	2,626	247.193
10	134.3	102.0	6,298	109.4	84.3	6.8	2,933	248.716
11	153.7	91.3	6,041	140.1	87.9	△ 4.9	2,694	250.600
12	142.6	90.5	6,981	86.2	75.4	△ 16.7	2,724	249.807

(一致系列)

系列名 年月	鉱工業生産指数 (鉱工業)	百貨店・スー パー販売額[前]	所定外労働時間 指数(製造業30 人以上)	有効求人倍率 (新規学卒を除く 全数)	県立美術館・富 士山世界遺産セ ンター(北館)来 館者数
	季節調整値 H27=100	前年同月比 %	季節調整値※ R2=100	季節調整値 倍	季節調整値※ 人
R3. 12	131.5	99.9	101.7	1.28	14,994
R4. 1	132.4	98.5	113.6	1.31	11,107
2	128.0	98.3	109.4	1.32	7,622
3	135.3	103.0	113.6	1.33	9,863
4	136.9	103.6	114.3	1.38	11,278
5	126.2	102.3	123.0	1.39	21,164
6	135.5	101.3	122.9	1.44	20,170
7	135.0	101.1	120.7	1.43	21,579
8	135.7	100.8	126.7	1.44	27,719
9	135.2	103.6	121.1	1.50	25,876
10	132.4	105.3	121.1	1.45	28,024
11	123.5	104.3	114.4	1.43	26,666
12	116.3	105.0	103.9	1.41	23,416

(遅行系列)

系列名 年月	実質法人企業設 備投資(製造業)	第3次産業活動 指数(対事業所 サービス業)	家計消費支出 (二人以上の世 帯)	常用雇用指数 (製造業30人 以上)[前]	有効求職者数 (逆)	法人事業税 (調定額)
	季節調整値 百万円	季節調整値 H27=100	季節調整値※ 円	前年同月比 季節調整値※ %	季節調整値 人	季節調整値※ 百万円
R3. 12	3,744,382	102.5	268,651	82.7	12,828	2,337
R4. 1	3,766,271	102.6	270,790	93.5	13,028	1,745
2	3,788,160	103.2	261,996	99.5	12,728	3,833
3	3,810,049	106.2	295,632	99.2	12,976	2,129
4	3,880,105	104.8	322,339	98.3	12,988	2,308
5	3,950,160	105.8	261,953	101.8	13,225	3,552
6	4,020,216	107.0	260,662	101.8	13,344	883
7	3,992,788	103.9	269,655	101.8	13,234	1,278
8	3,965,361	104.9	282,484	114.3	13,185	2,170
9	3,937,933	104.9	260,653	103.5	13,073	2,496
10		104.9	325,683	102.9	12,899	2,478
11		104.8	326,112	111.6	12,733	2,624
12		105.7	293,731	111.7	12,666	2,632

※ 山梨県景気動向指数を作成する際に、独自に季節調整を行っています。

利用の手引き

1 景気動向指数の概要

○ 景気動向指数

景気動向指数は、生産、雇用など様々な経済活動での重要かつ景気に敏感に反応する指標の動きを統合することによって、景気の現状把握及び将来予測に役立てるために作成された指標です。

なお、景気動向指数は、各経済部門から選ばれた指標の動きを統合して、単一の指標によって景気を把握しようとするものであり、すべての経済指標を総合的に勘案して景気を捉えようとするものではないことに配慮する必要があります。

○ CIとDI

景気動向指数には、コンポジット・インデックス(CI:Composite Index)とディフュージョン・インデックス(DI:Diffusion Index)があります。CIは構成する指標の動きを合成することで景気変動の大きさやテンポ(量感)を、DIは構成する指標のうち、改善している指標の割合を算出することで景気各経済部門への波及の度合い(波及度)を測定するための指数です。CIとDIは共通の指標を採用しており、採用系列数は先行指数8、一致指数5、遅行指数6の19系列です。

○ 先行指数、一致指数、遅行指数

CIとDIには、それぞれ、景気に対し先行して動く先行指数、ほぼ一致して動く一致指数、遅れて動く遅行指数の3つの指数があります。景気の現状把握に一致指数を利用し、先行指数は、一般的に、一致指数に数か月先行することから、景気の動きを予測する目的で利用します。遅行指数は、一般的に、一致指数に数か月から半年程度遅行することから、事後的な確認に用います。

2 山梨県CI

○ 目的

山梨県CIの作成は、主として景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としています。

○ 利用の仕方

一般的に、山梨県CI一致指数が上昇している時は景気の拡張局面、低下している時は後退局面であり、山梨県CI一致指数の動きと景気の転換点は概ね一致します。山梨県CI一致指数の変化の大きさから、景気の拡張又は後退のテンポを読み取ることができます。月ごとの山梨県CI一致指数には不規則な動きも含まれていることから、移動平均値をとることにより、ある程度の期間の月々の動きをならす必要があります。そのことから、毎月の統計表には、足下の基調の変化をつかみやすい3か月後方移動平均と、足下の基調の変化が定着しつつあることを確認する7か月後方移動平均をあわせて掲載しています

○ 作成方法

山梨県CIの作成方法は、内閣府のCI作成方法に準じています。山梨県CIの作成方法を簡潔に述べると、山梨県DIの個別指標における前月比変化率を過去の平均的な変動と比較することによって基準化し、それらの平均を求めて合成し、指数化します。詳しくは内閣府のホームページをご覧ください。(<http://www.esri.cao.go.jp/jp/stat/di/di3.html#link002>)

3 山梨県DI

○ 目的

山梨県DIの作成は、景気拡張の動きの各経済部門への波及度合いを測定することを目的としています。

○ 利用の仕方

山梨県DIは採用系列のうち改善している指標の割合のことで、景気各経済部門への波及の度合いを表します。月々の振れがあるものの、一般的には景気拡張局面では50%を上回り、後退局面では50%を下回る傾向があります。

なお、山梨県DIは、景気が拡張傾向あるいは後退傾向のいずれにあるかを判断する指標であり、景気変化の強さを表すものではありません。

○ 作成方法

各個別系列の数値を3か月前と比較して、増加したときは+を、減少したときは-を、変化のなかったときは0をつけます。(景気が良ければ減少し、悪ければ増加する性質のある逆サイクルの系列は増加を-、減少を+とします。)

その上で、先行、一致、遅行の各系列ごとに、採用系列数に占める拡張系列数(+の数)の割合(%)を求めます。

$$DI = \frac{\text{拡張系列数}}{\text{採用系列数}} \times 100 (\%)$$

(0 (もちあい) は0.5としてカウントします。)

4 CIとDIの違い

DIは景気各経済部門への波及の度合いを表す指標です。そのため、各採用系列が大幅に拡張しても、小幅に拡張しても、拡張系列の割合が同じならば同じ山梨県DIが計測されます。一方、CIは景気の強弱を定量的に計測する指標ですので、DIが同じ数値で計測されたとしても、各採用系列が大幅に拡張していればCIも大幅に上昇し、各採用系列が小幅に拡張しているならばCIも小幅に上昇します。このように、CIはDIでは計測できない景気の山の高さや谷の深さ、拡張や後退の勢いといった景気の「量感」を計測することができます。

一方、DIが異なる数値で計測されたとしても、多くの系列で小幅に拡張した時と、一部の系列が大幅に上昇した時とで、同じCIの上昇幅が得られる場合があります。このように、CIの変化幅そのものからは経済部門の相違を把握することが難しいため、CIの変化幅に対する各採用系列の寄与度やDIをあわせて利用することが望ましいとされています。

5 山梨県景気動向指数の改定

○ 遡及改定等

採用している基礎統計が確報値を公表するなどした場合、過去にさかのぼって改定します。また、未発表の系列がある月については、現時点で得られる値のみで求めています。その際得られなかった値については空欄としています。

○ 採用系列の入替え

景気動向指数の作成にあたっては、その採用系列が現在の景気の動きを十分に反映しているかどうか点検を行い、必要に応じて入替えを行っています。

山梨県では、平成28年4月分から採用系列の入替えを実施しました。

○ 公表時期

平成28年4月分から、公表時期を対象月の3か月後の月初めから翌々月末に変更しました。

○ 公表形態の移行

山梨県においては、平成23年12月分からDI(試行版)の公表を開始し、平成25年11月分から試行版を外すとともに、CI一致指数を参考値として公表開始しました。また、平成28年4月分から従来のCI一致指数に加え、CI先行指数及びCI遅行指数を参考値として併せて公表を開始しました。

その後、景気変動の大きさや量感を把握することがより重要になったため、平成28年10月分からCIを中心とした公表形態に移行しました。なお、DIも景気の波及度を把握するために重要な指標ですので、参考指標として引き続き作成・公表しています。

次回の公表：令和5年1月分の公表は令和5年3月末の予定です。